

大腸憩室出血の危険因子についての研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2021年6月24日～2022年3月31日

〔研究課題〕 大腸憩室出血における出血部位と重症化および再出血リスクの関連についての検討

〔研究目的〕 わが国では大腸憩室の増加に伴い憩室からの出血の患者さんが増加していますが、時に重症になることがあることが知られています。また一度出血が止まっても再出血することが多いのがこの病気の特徴ですが、今のところどういう場合に重症になるのか、再出血するのはよくわかっていません。本研究の目的は憩室出血の重症化及び再出血に関与する因子を明らかにすることです。

〔研究意義〕 本研究によって大腸経出血患者の重症化及び再出血リスク因子を明らかにすることにより、重症化や再出血を予想し予防することが期待できます。

〔対象・研究方法〕 医療記録（カルテ）から、2004年1月～2021年5月までに、当院内科に入院となった全大腸憩室出血患者さんを抽出し、行った処置（内視鏡的止血術や血管塞栓術など）とその結果（止血の可否）、輸血の有無、再出血の有無を調査します。また背景因子（年齢、性別、基礎疾患、併存疾患、併用薬、疾患の部位など）も併せて調査します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕 電子カルテ内の情報の抽出については、院内規定に従って情報システム部に依頼し、研究責任者（内科教授 山本貴嗣）が直接医療記録より行います。個人が特定され得る記録については匿名化し、エクセルファイルにて作成した対応表（症例ナンバーと実名を対応させたもの）と分けて、研究責任者の大学自室内の別の施錠可能な場所でそれぞれの電子媒体として保管いたします。研究終了後は帝京大学臨床研究センターにて10年間保管後、廃棄いたします。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い致します。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：教授 山本 貴嗣

研究分担者：准教授 小田島 慎也、講師 阿部 浩一郎

帝京大学大学院医学研究科大学院生 天野 博仁

所属：帝京大学医学部内科学講座消化管研究室

住所：東京都板橋区加賀2丁目11-1 TEL:03-3964-1211 （代表）〔モバイル 7030〕